

施策の方向性：安全で安心できる暮らしの確保

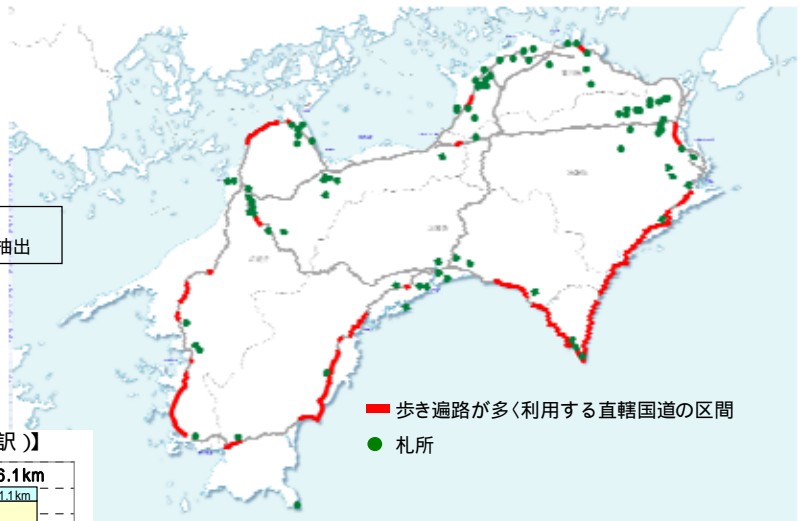
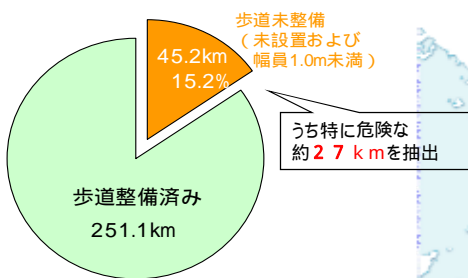
施策：交通安全の向上

施策名：歩き遍路の危険箇所緊急3箇年プログラム（徳島県、愛媛県、高知県）

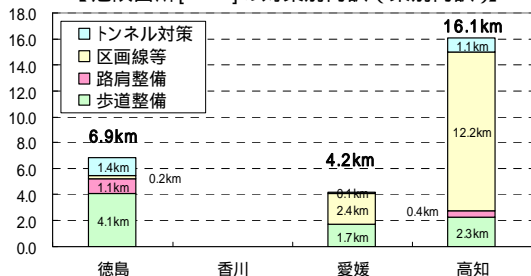
四国遍路は四国霊場八十八箇所を巡る全長約 1,400 km のルートからなり、年間約 15 万人が参拝、そのうち歩き遍路は約 3 千人と言われているが、交通安全に関する対策は十分とは言えない状況。

これらの現状を踏まえ、管内の直轄国道のうち、多くの歩き遍路が利用すると考えられる区間を選定し、そのうちの危険箇所について歩道設置などを行う緊急3箇年対策プログラムを策定し、お遍路文化を支援。

【歩き遍路区間の歩道整備状況】



【危険箇所[27km]の対策別内訳 (県別内訳)】



H20 末の進捗率は約 34%

H21 末で 100% の予定

【各年度の整備延長】

H19 年度・・・2.4 km 整備

H20 年度・・・6.7 km 整備

H21 年度・・・18 km 整備予定

図 - 39 歩き遍路が多く利用する直轄国道の状況



写真 - 11 具体的な対策前後の様子

今治市役所前交差点においては、4カ年（H15～H18）で43件の事故が発生（うち2件が死亡事故）。

交差点がロータリーとなっており走行経路が複雑であることや、横断歩道の視認性が悪いことなどに起因する交通事故が多発。

事故率の高い箇所において、実状に即した対策を早期に実施していく必要あり。



図 - 40 今治市役所前交差点の現況



図 - 41 整備後イメージ

災害のおそれのある区間を回避する道路。

線形不良箇所が多く、雨や災害により通行止めが発生。

仁淀川町から越知町の病院への通院患者が多く、通行止めの発生は、命の危険に関わる可能性大。



図、写真は四国地方整備局資料より

図 - 42 防災対策箇所



豪雨・豪雪時においても、公共施設や病院などを相互に結ぶ生活幹線道路の安全・安心な通行を確保

事業名：一般国道 195 号鷲敷～木頭工区（徳島県）

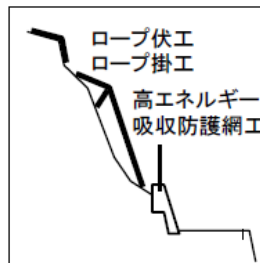
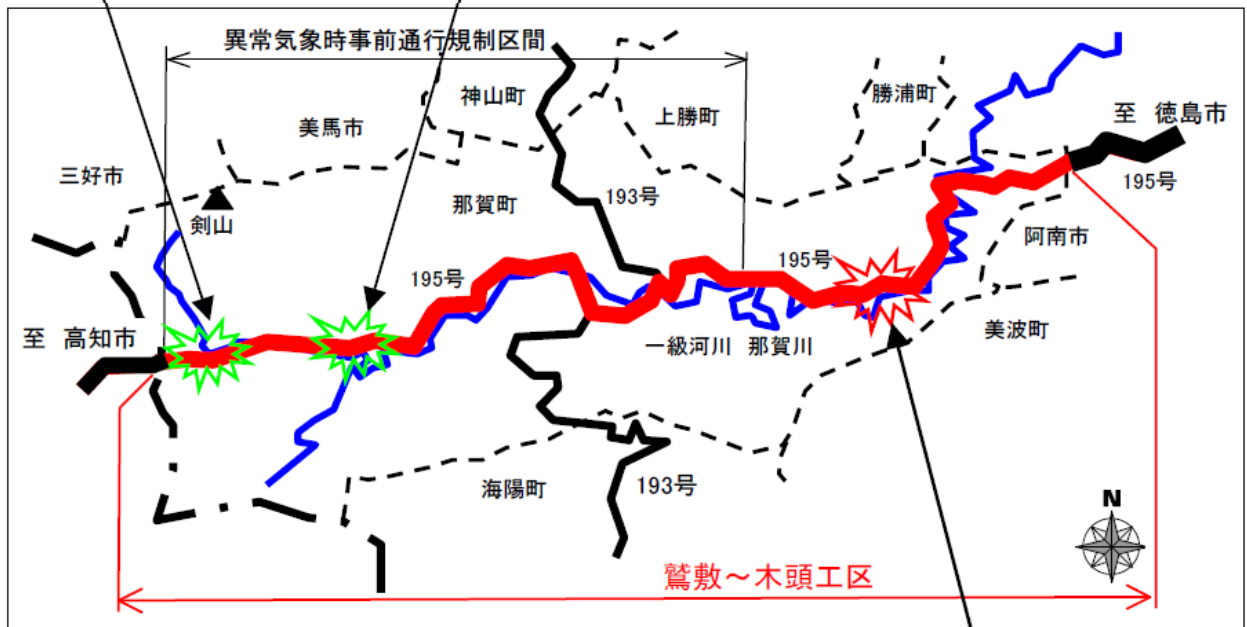
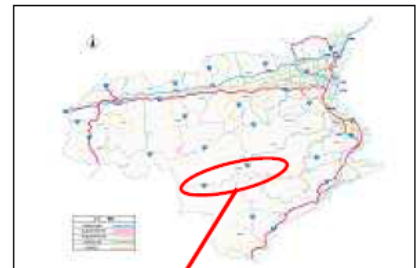
- ◇当該道路は、県南地域における東西の幹線道路であり、地域住民の生活を支え、災害発生時には緊急輸送道路としての役割を担う生命線道路。
- ◇しかし、道路防災総点検における要対策箇所が多数存在し、落石等の危険性が高い。
- ◇また、豪雨等異常気象時の事前通行規制区間。
- ◇法面对策工や落石防護工の整備により、生命線道路としての通行の安全性を確保。



平成19年5月 山腹崩壊



平成20年9月 落石発生



対策断面図

—死亡事故発生—

- 平成18年6月：落石による死亡事故が発生
- 平成19年7月：大規模な山腹崩壊が発生（86日間全面通行止め、町道が迂回路となる）

整備効果

- 幹線道路として安全性が大幅に向上
- 災害発生時の緊急輸送道路として確保
- 落石による事故件数が減少



平成19年7月 山腹崩壊

図 - 43 災害等発生状況

施策名：橋梁の耐震対策（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）

近い将来に発生が予測される「東南海・南海地震」などの大規模地震への対応として、救急・救助活動の支援、物資の輸送、緊急輸送路の確保のため耐震対策を実施。
緊急輸送路となる幹線道路の橋梁の重大な損傷を防止し、災害時の早急な通行を確保することを目標に、落橋防止装置の設置や沓座拡幅等による橋脚補強を実施。

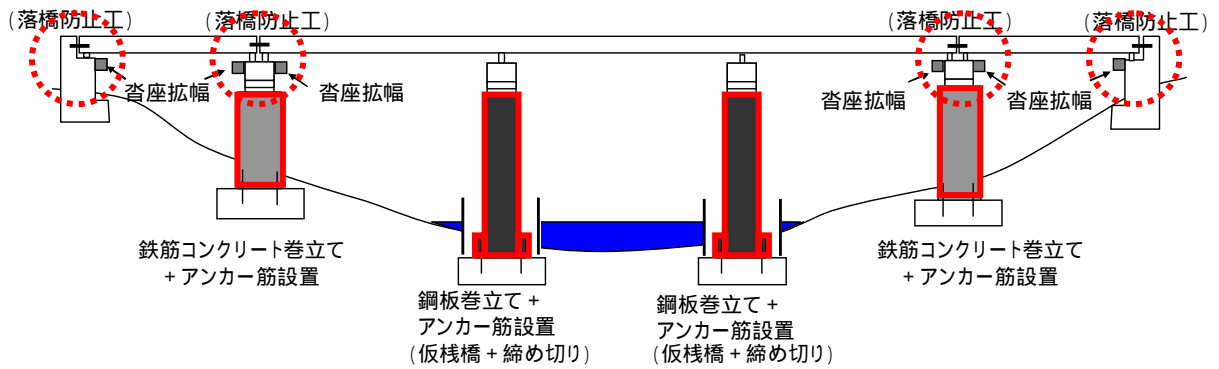
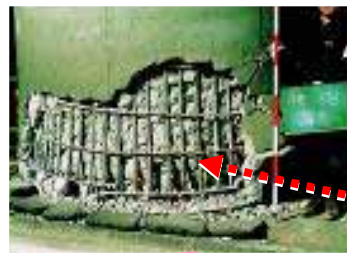


図 - 44 橋梁の耐震補強



兵庫県南部地震における橋脚の基部の損傷



【橋脚補強】



【落橋防止工】

写真 - 12 橋梁の耐震補強

施策の方向性：美しく豊かな四国の創造

施策：生活環境の向上

事業名：一般県道六軒家石手線松山地区電線共同溝（愛媛県）

中期計画意見より

一般県道六軒家石手線は、愛媛県を代表する観光地「道後温泉地区」と松山市中心部を結ぶ幹線道路であり、多くの観光客が訪れ交通量も多い。

歴史ある街並みの保全と優れた沿道景観の形成、安全で快適な歩行空間の確保、防災機能の強化等に期待。



写真 - 13 道後温泉地区無電柱化未整備区間の現況

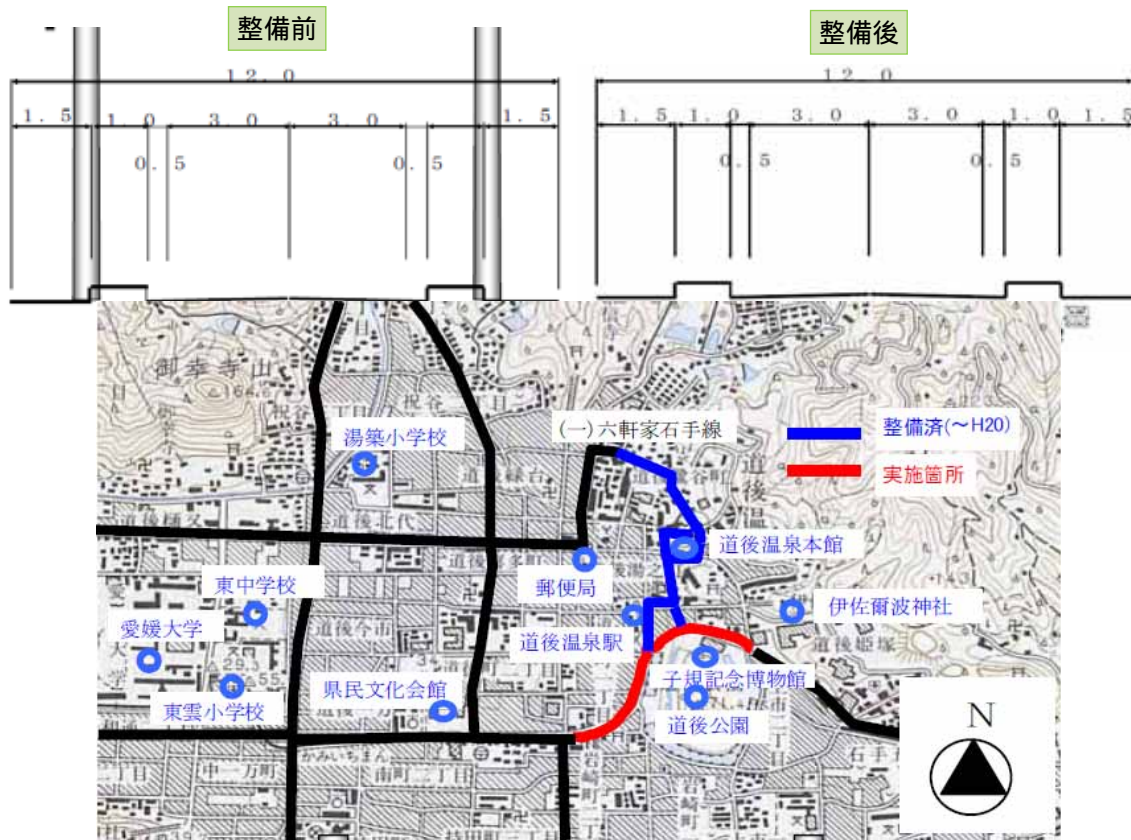


図 - 45 道後温泉地区無電柱化実施箇所

事業名：主要地方道桂浜はりまや線・潮江北部地区（高知県）

主要地方道桂浜はりまや線は、高知県を代表する観光地「桂浜」と高知市中心部を結ぶ幹線道路で、多くの観光客も訪れ交通量が多い。

小中高校やスポーツ施設、文教施設などが集積したあんしん歩行エリア地区であり、安全で快適な歩行空間と自転車走行空間を確保する。

第1次緊急輸送道路として、電柱の倒壊による通行遮断への対策として期待される。安心で快適に暮らせる地域を目指して、住民主体の取り組みが活発に行われている。

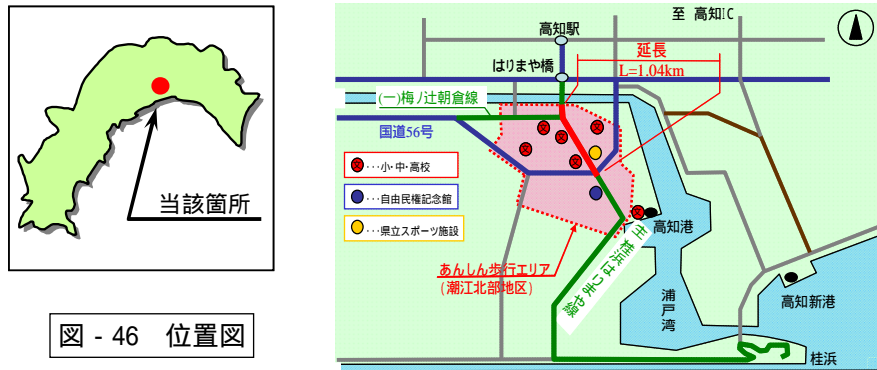


図 - 46 位置図

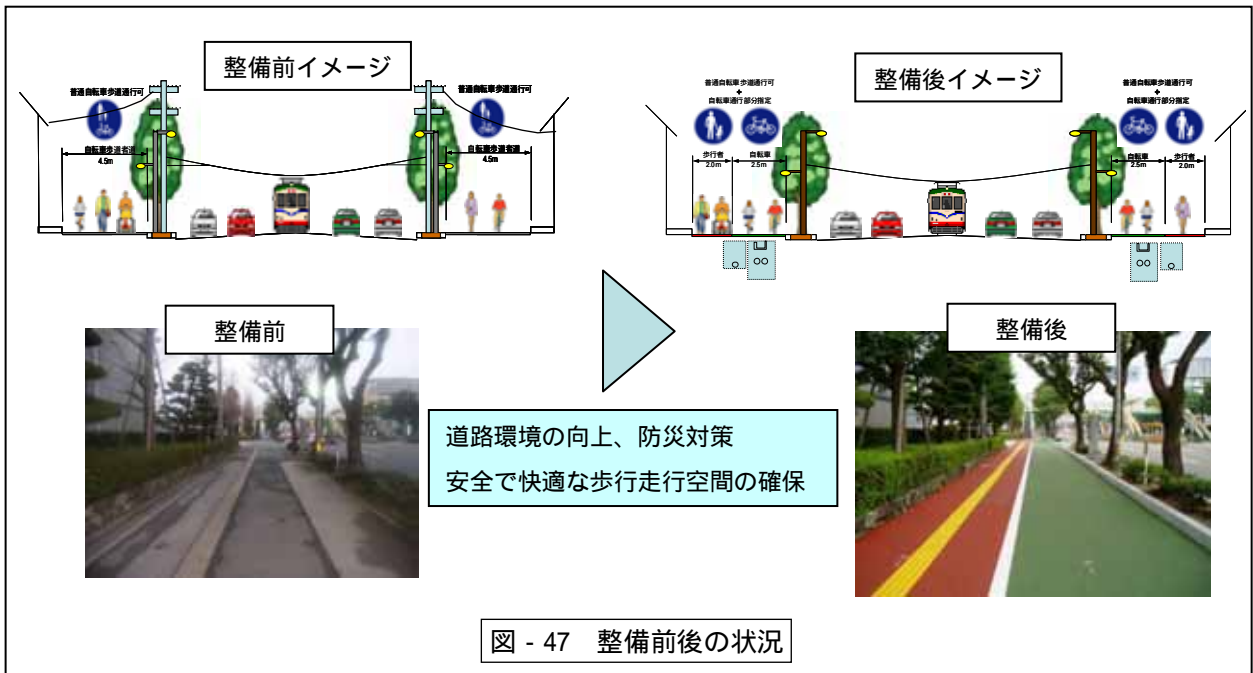


図 - 47 整備前後の状況

地域住民の取り組み



高校主催のボランティア清掃



避難経路シールの設置